



新市庁舎整備事業について

新市庁舎整備については、平成 28 年第 1 回市会定例会において「市第 213 号議案 横浜市市庁舎移転新築工事請負契約の締結」が可決され、来年夏の工事着手に向け基本設計に着手しました。

基本設計では、発注仕様書の要求水準やDB（デザインビルド）事業者の技術提案に基づき、建物の配置や平面計画、外観デザイン、構造や設備計画などの基本的事項について、CM（コンストラクションマネジメント）事業者の支援を受けながらDB事業者と設計協議を行ってきました。

8 月末までに基本設計を整理しましたので、基本設計の概要（建物概要、動線計画及び建物配置計画、平面図、外構計画、立面図、環境技術、BCP計画、今後のスケジュール）について報告します。

今後は、基本設計に基づき工事に必要な詳細な設計を進めます。

- 資料 p 1 : 建物概要
- 資料 p 2 : 動線計画及び建物配置計画
- 資料 p 3～11 : 平面図
- 資料 p 12 : 外構計画
- 資料 p 13 : 立面図
- 資料 p 14 : 環境技術
- 資料 p 15 : B C P 計画
- 資料 p 16 : 今後のスケジュール

①計画地

横浜市中区本町6丁目50番地の10（北仲通南地区）

※「市の事務所の位置に関する条例」に基づき、別途規則で定める日から供用開始します。

②規模

敷地面積 13,486㎡
 延床面積 140,700㎡
 建物高さ 155m
 階数 地下2階/地上32階/塔屋2階
 ※執務室は31階まで、32階は電気室、機械室

③構造概要

構造種別 鉄骨造(コンクリート充填鋼管造)等
 構造方法 中間層免震構造+制振構造
 基礎 杭基礎(一部直接基礎)
 ※全杭位置で実施した地盤データを基本設計に反映

④屋上ヘリポート

場外離発着場 大型ヘリコプターに対応(ヘリポート床面24m×20m)

⑤駐車台数

約400台 内訳 1F:約10台、地下1F:約180台、地下2F:約210台

⑥昇降機設備

<エレベータ>

市民利用・商業 (地下2F~3F)×2台、(地下1F~3F)×1台、(地下2F~1F)×1台
 議会部分 (地下2F~8F)×2台、(3F~8F)×2台
 行政部分 (低層用:3F~11F~18F
 中層用:3F・11F・18F~25F
 高層用:3F・11F・18F・25F~31F) ×各8台 計 24台
 非常用等 (地下2F~32F)×4台
 (人荷・特定利用者用)

<エスカレータ>

市民利用・商業 地下2F~地下1F 1か所(2台)
 地下1F~ 1F 1か所(2台)
 1F~ 2F 2か所(4台)
 2F~ 3F 2か所(4台) 計 12台

⑦電気設備

受変電設備 22kV 3回線スポットネットワーク受電方式
 非常用発電設備 ガスタビン発電機4000kVA(2000KVA×2台)
 7日間運転可能な燃料タンク(軽油)
 太陽光発電設備 100kW 想定年間発電電力量 約10万kWh
 (一般家庭の約30世帯分)
 水素燃料電池設備 200kW 想定年間発電電力量 約120万kWh
 (一般家庭の約400世帯分)

⑧空調衛生設備

熱源設備 地域冷暖房より供給
 空調設備 高層部基準階 天井輻射空調+湿度調整型の空調機
 中・低層部 天井吹出空調方式
 アトリウム 床輻射方式+床吹出空調方式
 給水設備 受水槽+加圧給水方式、高架水槽
 下水再生水利用(トイレ洗浄水)
 ガス設備 中圧ガス引込



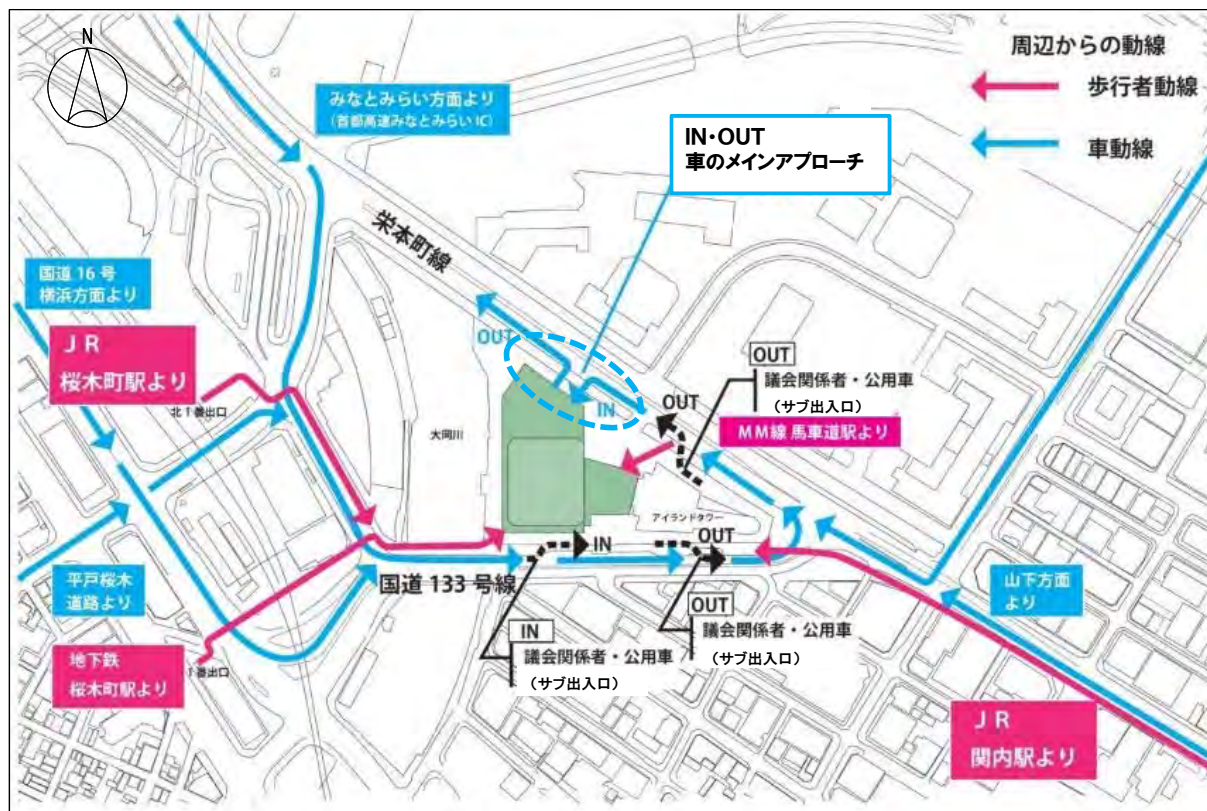
北仲橋方面からの外観



弁天橋方面からの外観

①動線計画

公共交通機関からの歩行者および、各方面からの車動線に合わせて出入口を設置

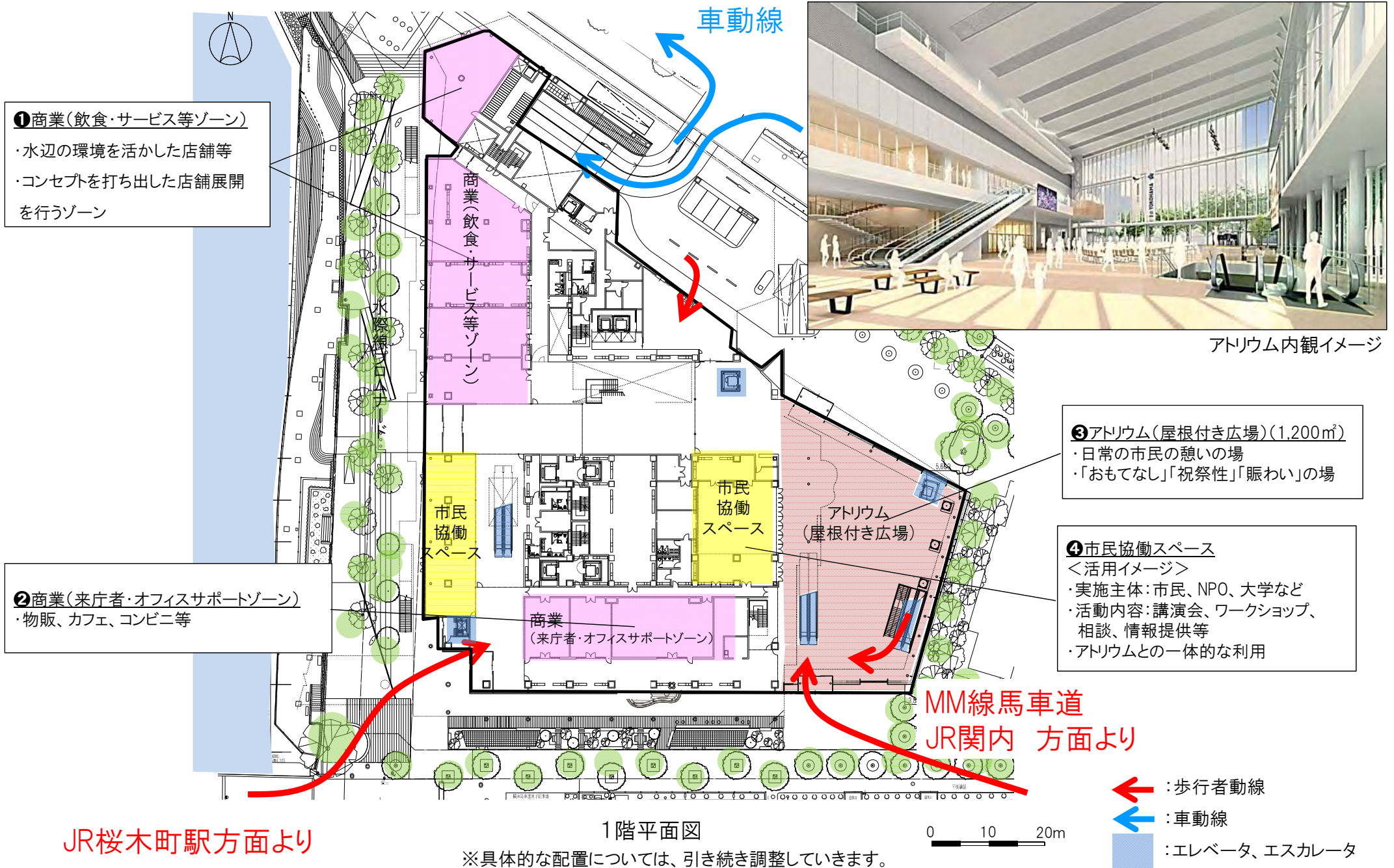


②建物配置計画

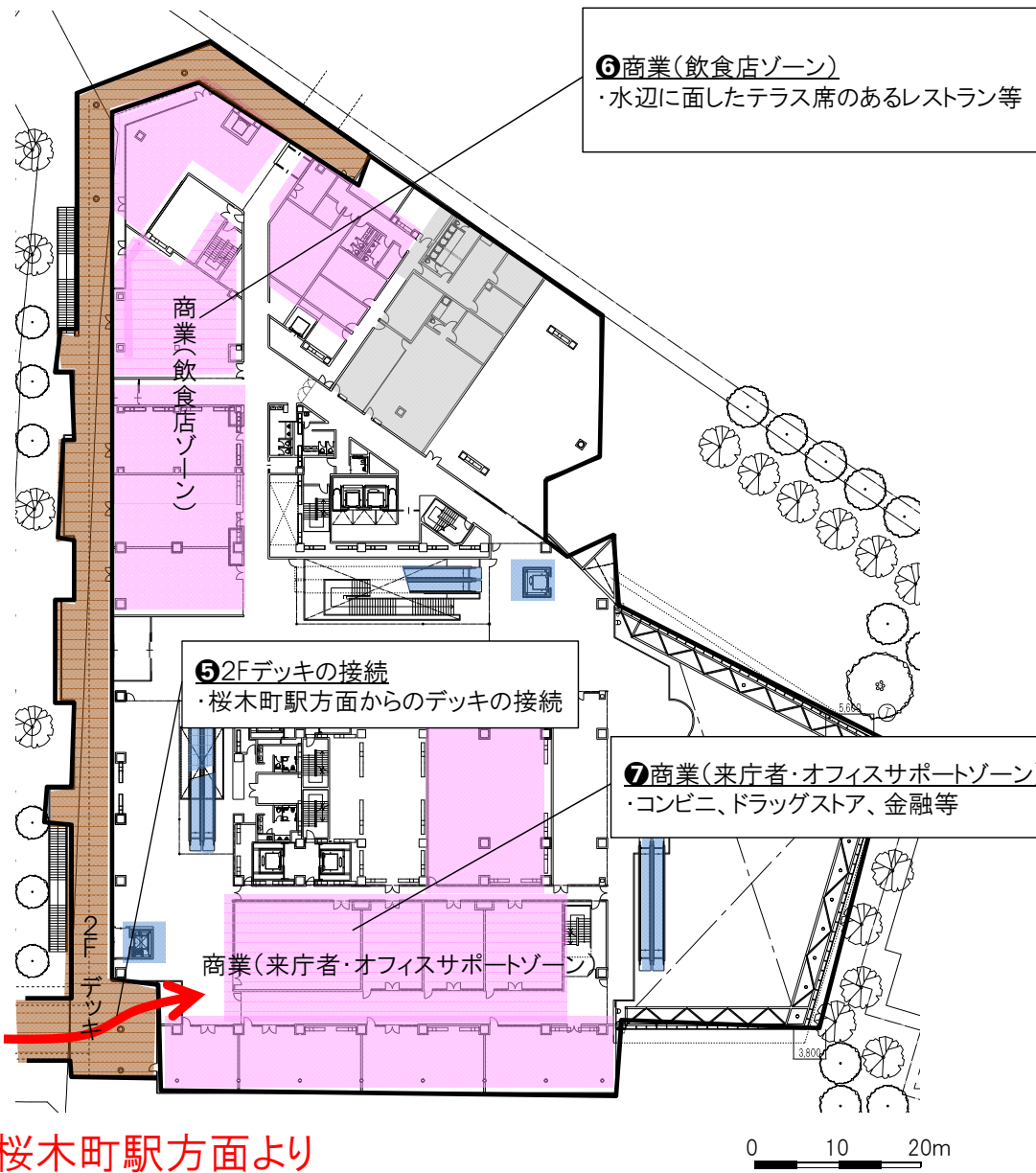
- ・行政部分は高層部に配置
- ・議場部分は高層部から独立した北側に配置
- ・アトリウムは高層部と隣接する横浜アイランドタワーとの間に配置



平面図(低層部:1階)

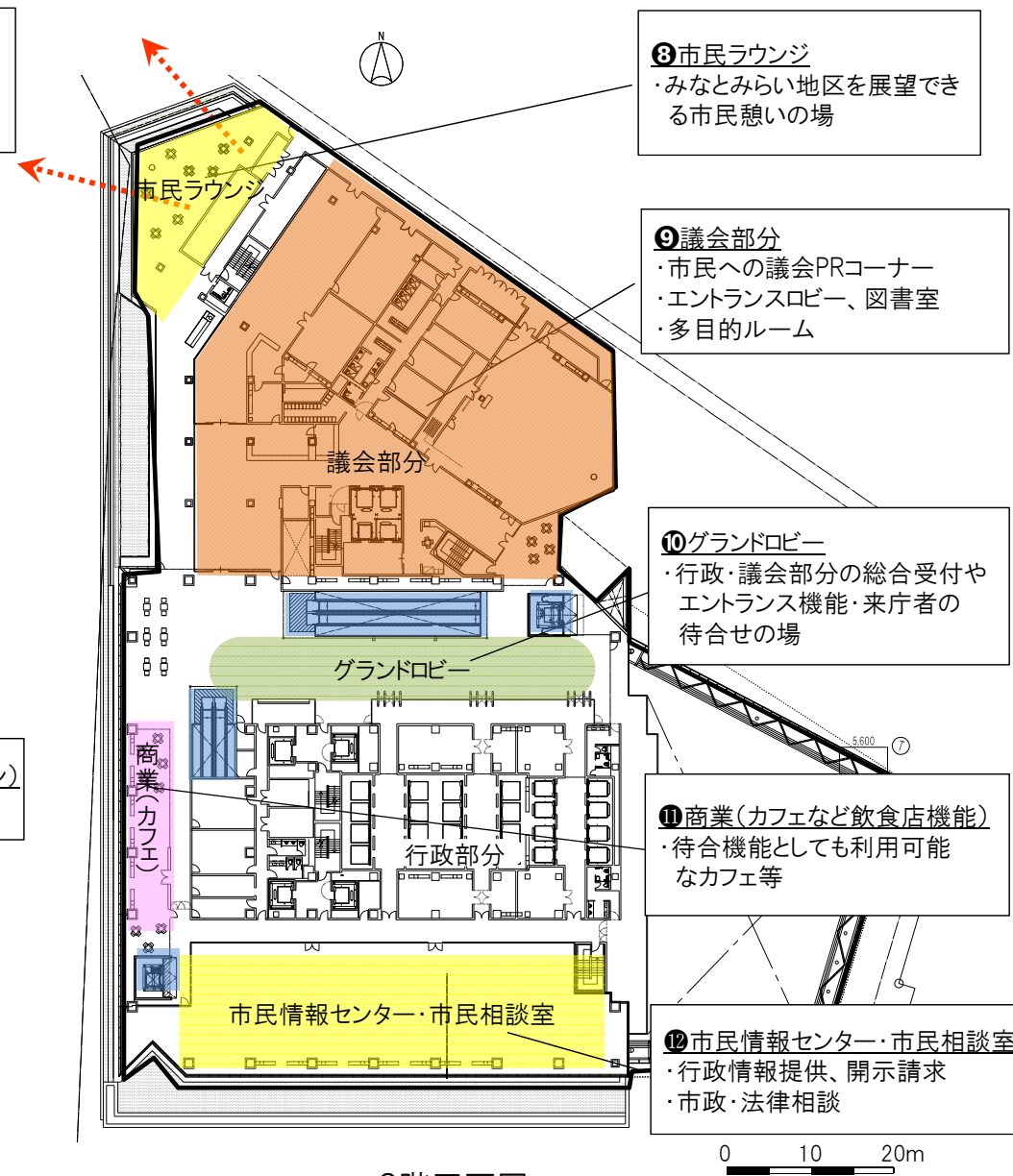


平面図(低層部:2、3階)



2階平面図

桜木町駅方面より



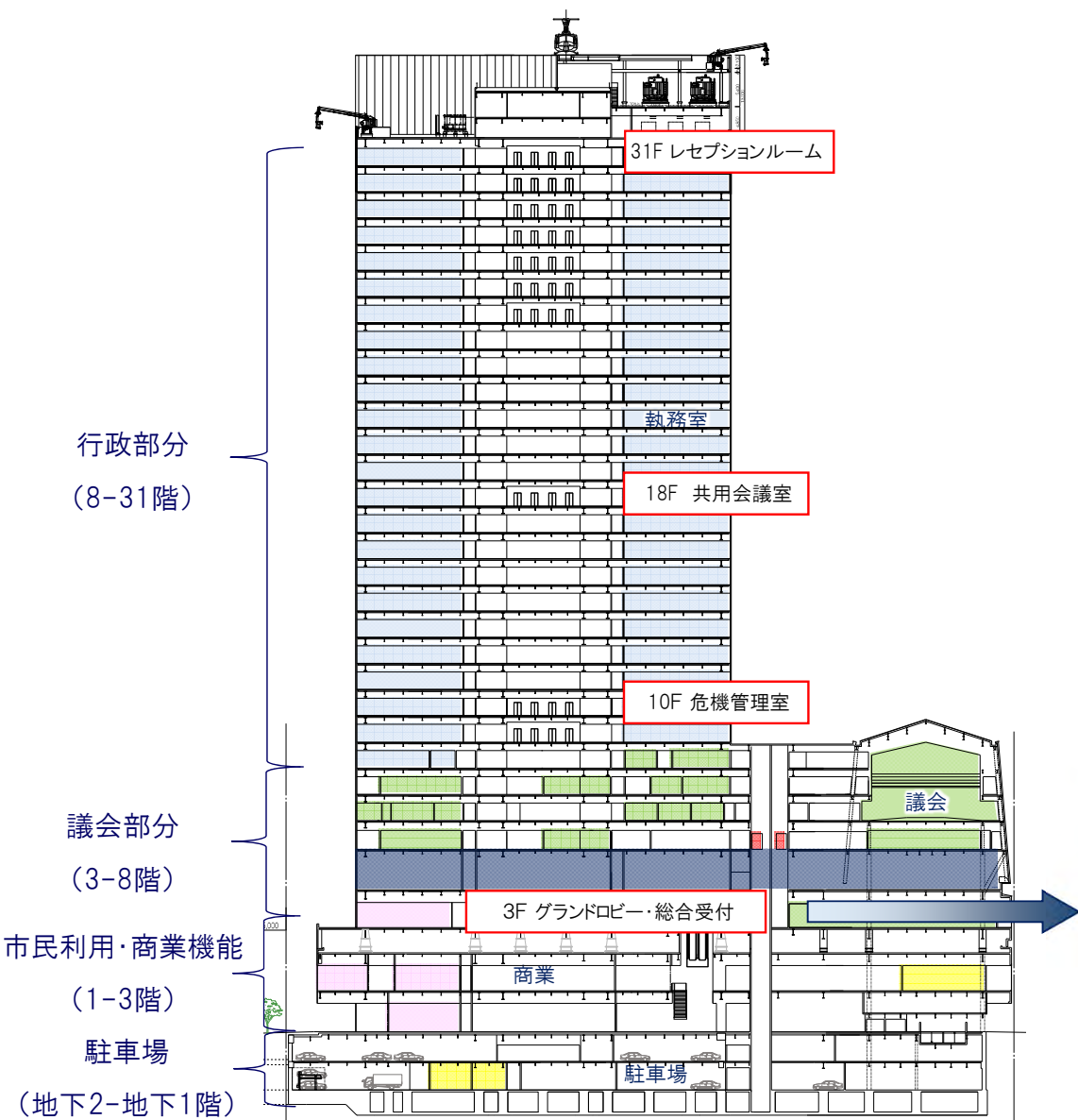
3階平面図

← : 歩行者動線

■ : エレベーター、エスカレーター

※具体的な配置については、引き続き調整していきます。

①フロア構成



※行政機能の具体的な配置については、引き続き調整していきます。

②来庁者訪問の流れ(イメージ)

エレベーター／対応

- ・ゲート通過後、来庁者はエレベーターで目的階まで進みます。
- ・非窓口／窓口フロアでそれぞれ対応を受けます。



非窓口フロア(待合スペース)



窓口フロア(窓口カウンター)



3階グランドロビー(受付)

- ・来庁者は、訪問先の部署や目的とする行政サービスの内容を告げて、ゲストカードの貸与を受けます。(※不測の事態に備える必要がある場合を除き、記名は求めません。)



受付イメージ(高崎市役所)



ゲストカード

3階セキュリティゲート

- ・来庁者は受付で貸与されたゲストカードをゲートにかざし通過します。

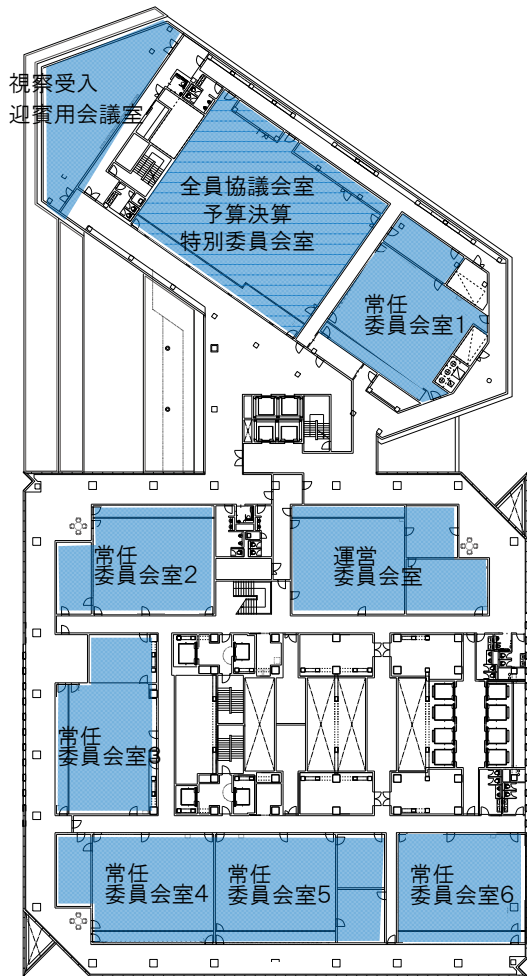
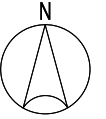


セキュリティゲート(横浜第二合同庁舎)

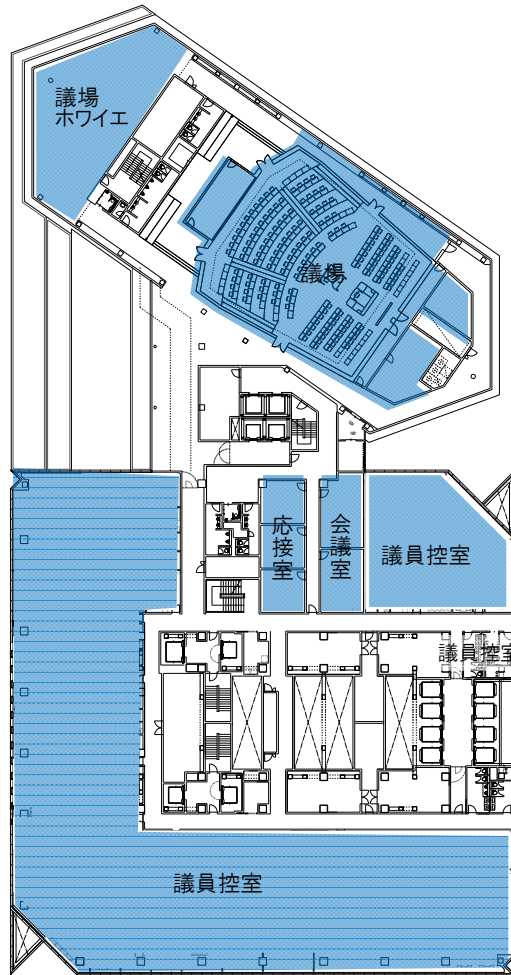


ICカード認証による入退館管理

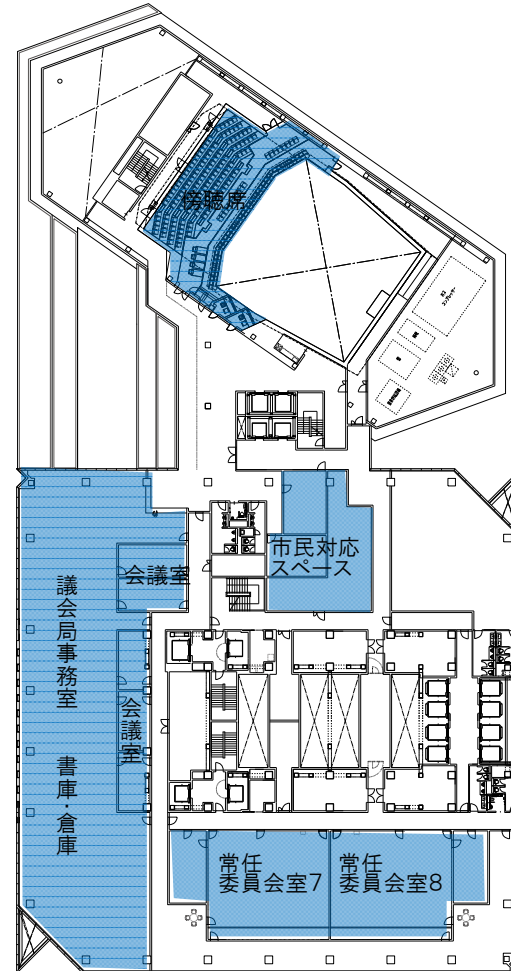
※写真等はイメージです。



5階平面図



6階平面図



7階平面図



8階平面図



※詳細なレイアウトについては、引き続き調整していきます。

①待合スペース

- ・来庁者がエレベータホールから直接訪れることができ、職員が来庁者をお迎えし対応するスペース



②応接・相談ブース、共用会議室

- ・プライバシーに配慮した落ち着いた環境の来庁者対応スペース



③オープンフロア・ユニバーサルレイアウト

- ・高い開放性、コミュニケーションの活性化
- ・可変性、柔軟性を備えた執務空間



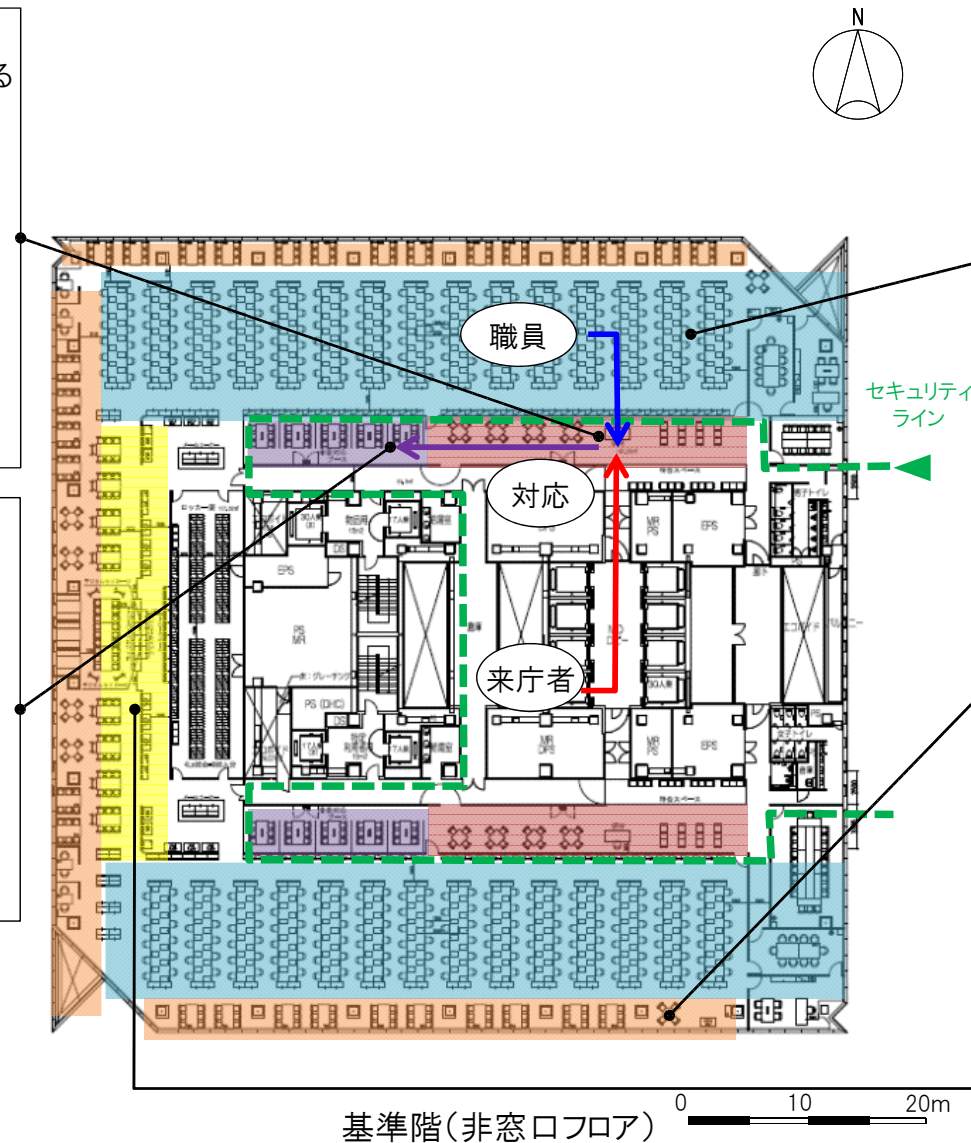
④ミーティングスペース

- ・職員同士が自由に打合せができるスペース



⑤マグネットコーナー

- ・コピー機・複合機などの事務機器等を集約



※詳細なレイアウトについては、引き続き調整していきます。

※写真等はイメージです。

①窓口カウンター・待合スペース

・来庁者がエレベータホールから直接
目的の部署に訪れることができる
カウンターを設置



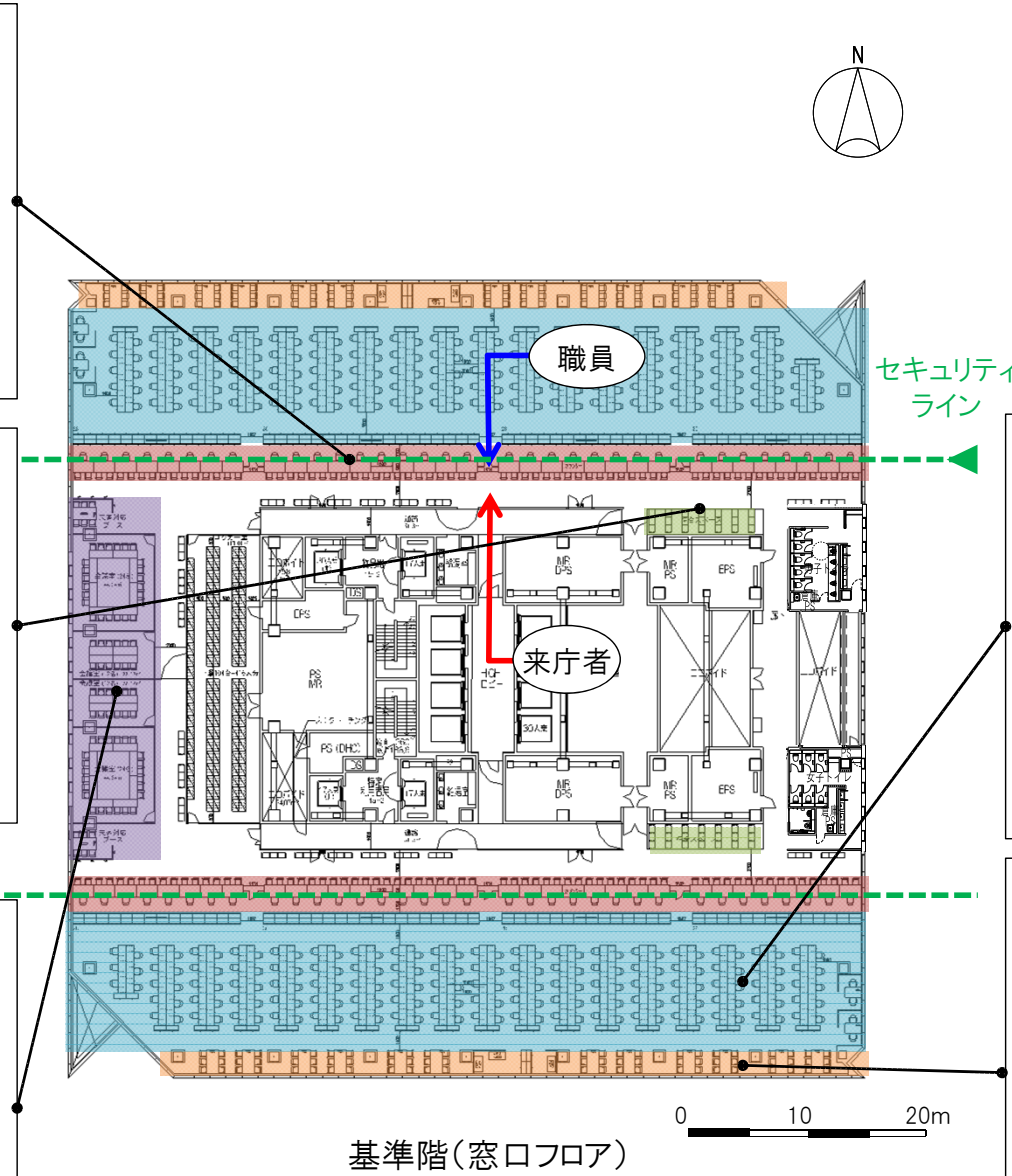
②図面等閲覧スペース

・必要に応じ、来庁者が利用できる図面等
閲覧スペースを設置



③共用会議室

・プライバシーに配慮した落ち着いた環境
の来庁者対応スペース



④オープンフロア・ユニバーサルレイアウト

・高い開放性、コミュニケーションの活性化
・可変性、柔軟性を備えた執務空間



⑤ミーティングスペース

・職員同士が自由に打合せができる
スペース



※詳細なレイアウトについては、引き続き調整していきます。

※写真等はイメージです。

①大規模会議室

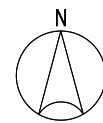
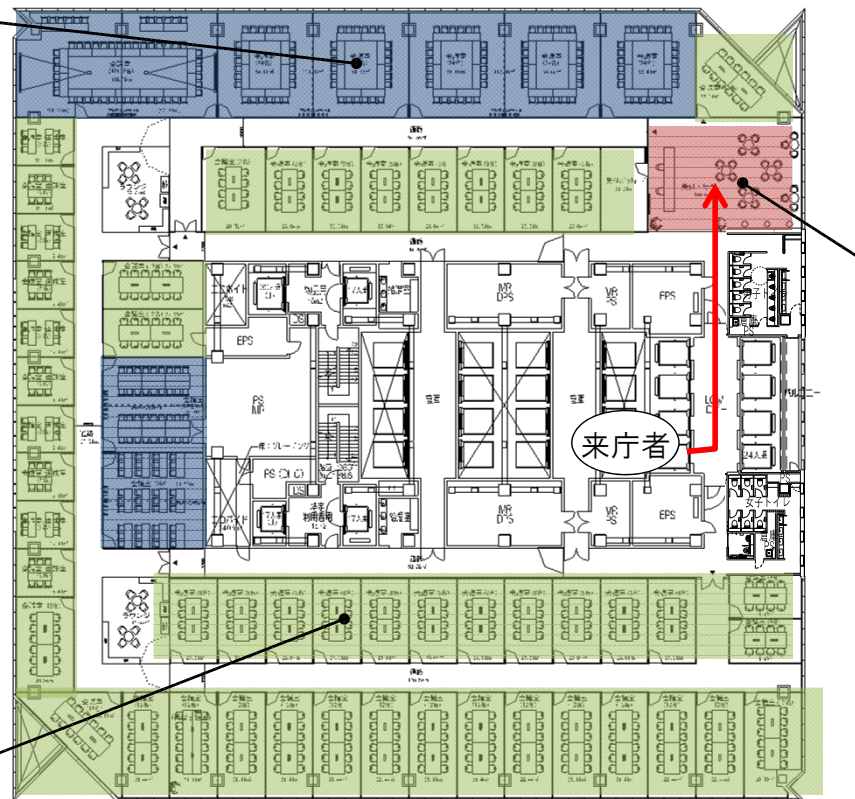
・大人数(24~50人程度)が利用できる会議室を設置

※会議室をつなげ、デスク配置を工夫することで、収容人数の拡大が可能



②小・中規模会議室

・様々な人数(6~12人程度)で利用できる会議室を設置



0 10 20m

共用会議室フロア(18階)

③待合スペース

・来庁者がエレベータホールから直接訪れることができ、職員が最初に来庁者対応するスペース

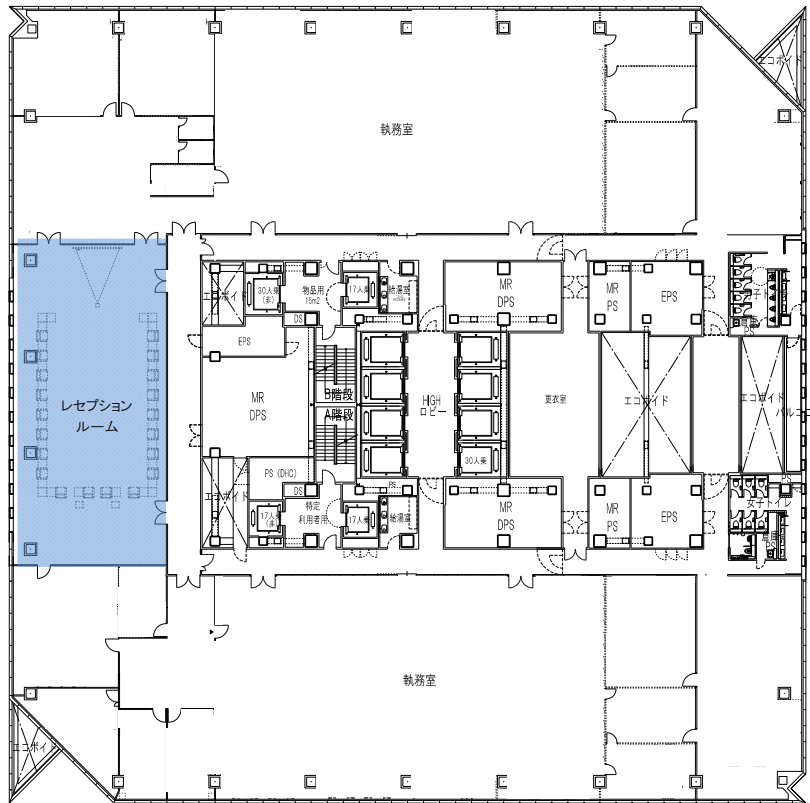


※詳細なレイアウトについては、引き続き調整していきます。

※写真等はイメージです。

レセプションルーム

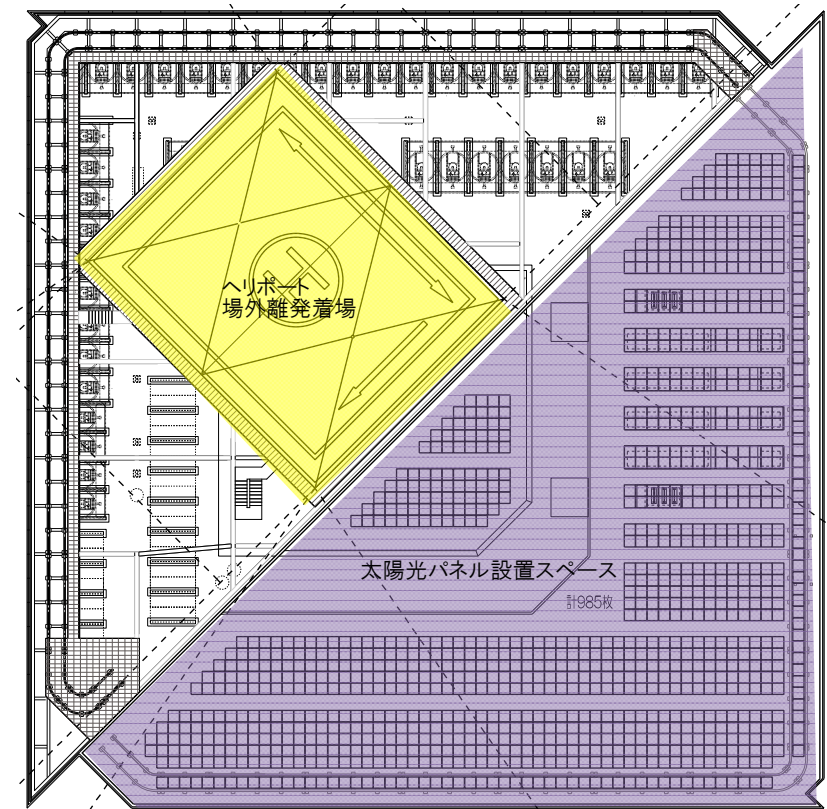
①迎賓対応やセミナーなどにも利用可能なレセプションルームを設置



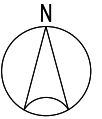
31階平面図

屋上階

- ①ヘリポートは緊急時以外の訓練にも使用可能な場外離発着場を計画
- ②100kWの太陽光パネルを設置

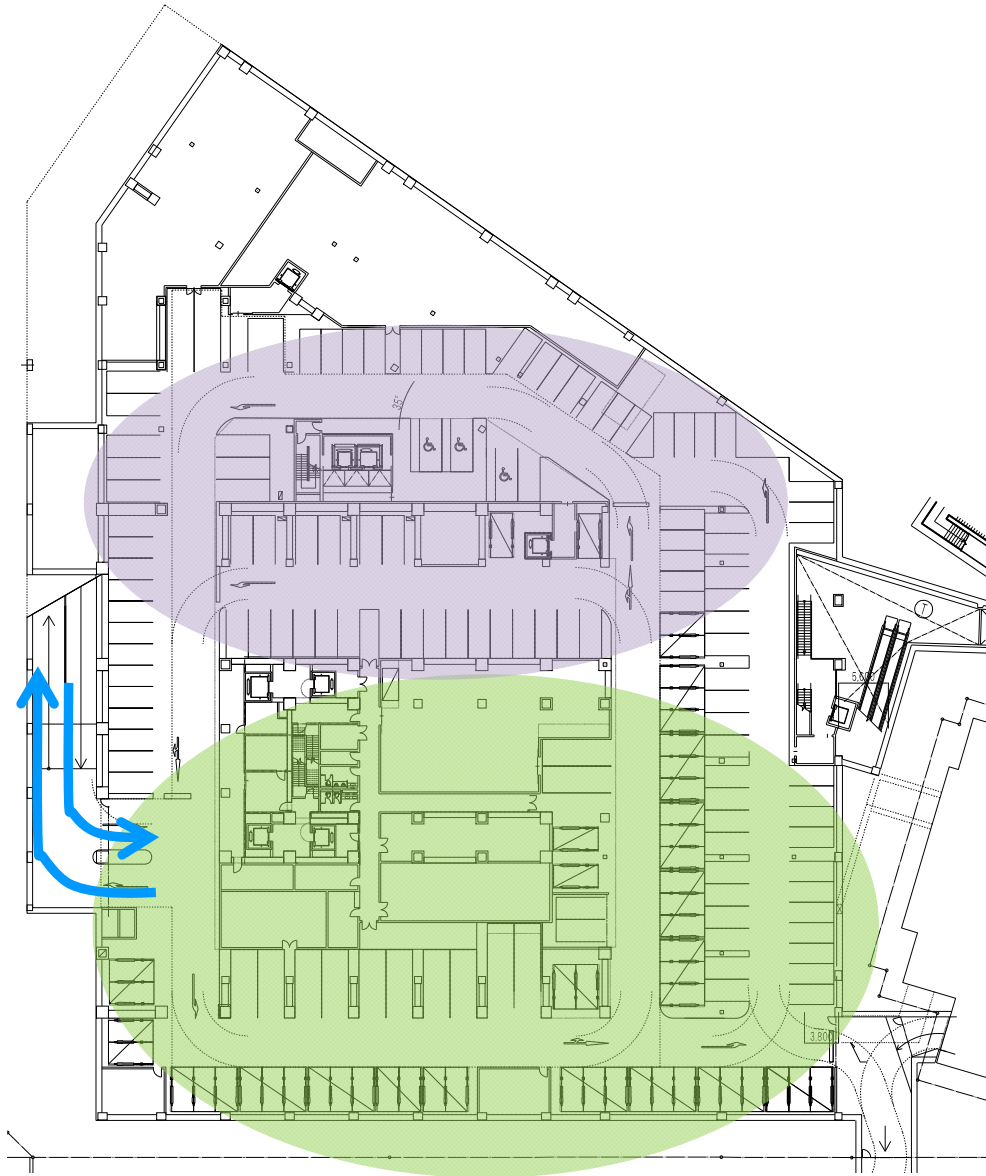


屋上階平面図

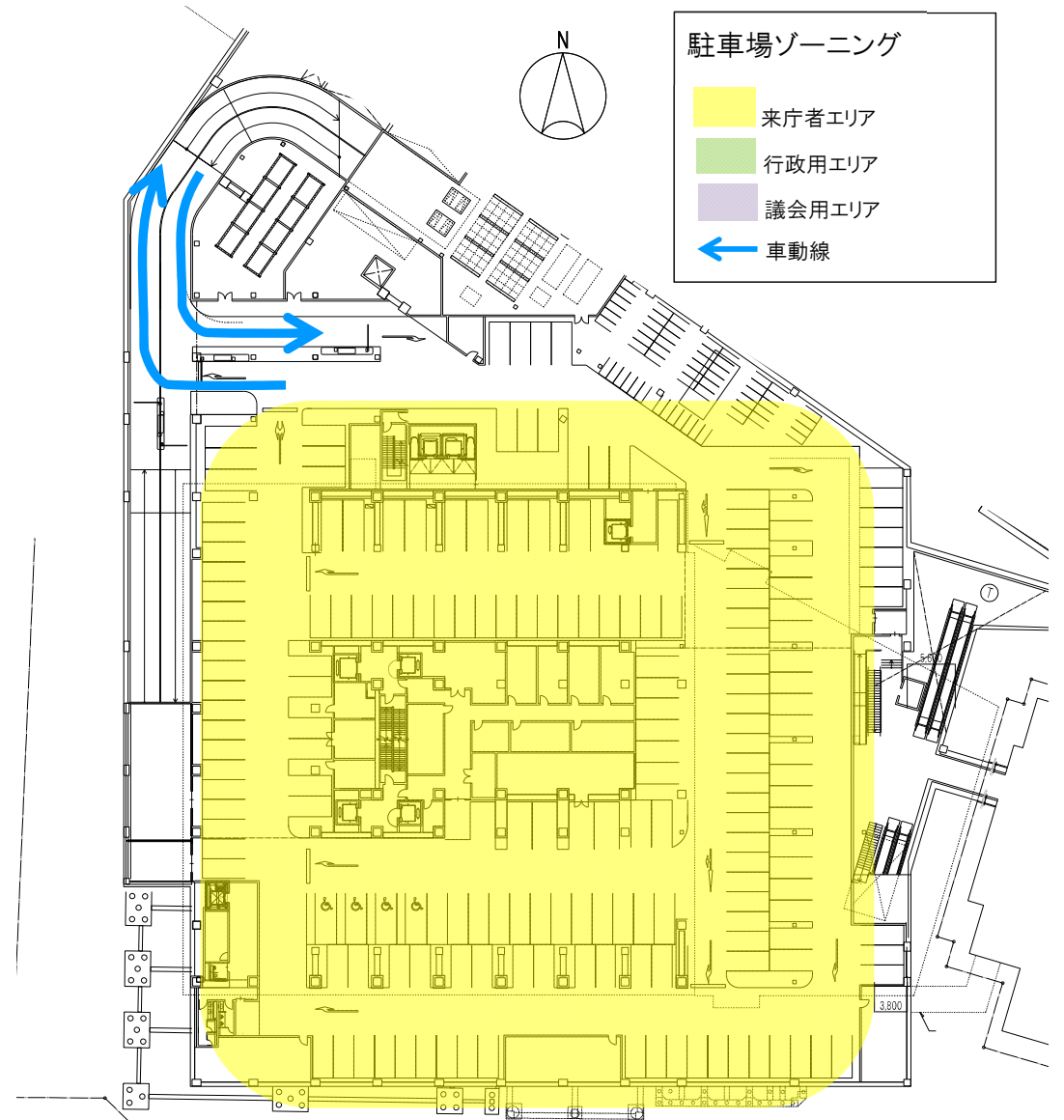


0 10 20m

※詳細なレイアウトについては、引き続き調整していきます。



地下2階平面図(議会・行政用)



地下1階平面図(来庁者用)

※具体的な駐車台数については、引き続き調整していきます。

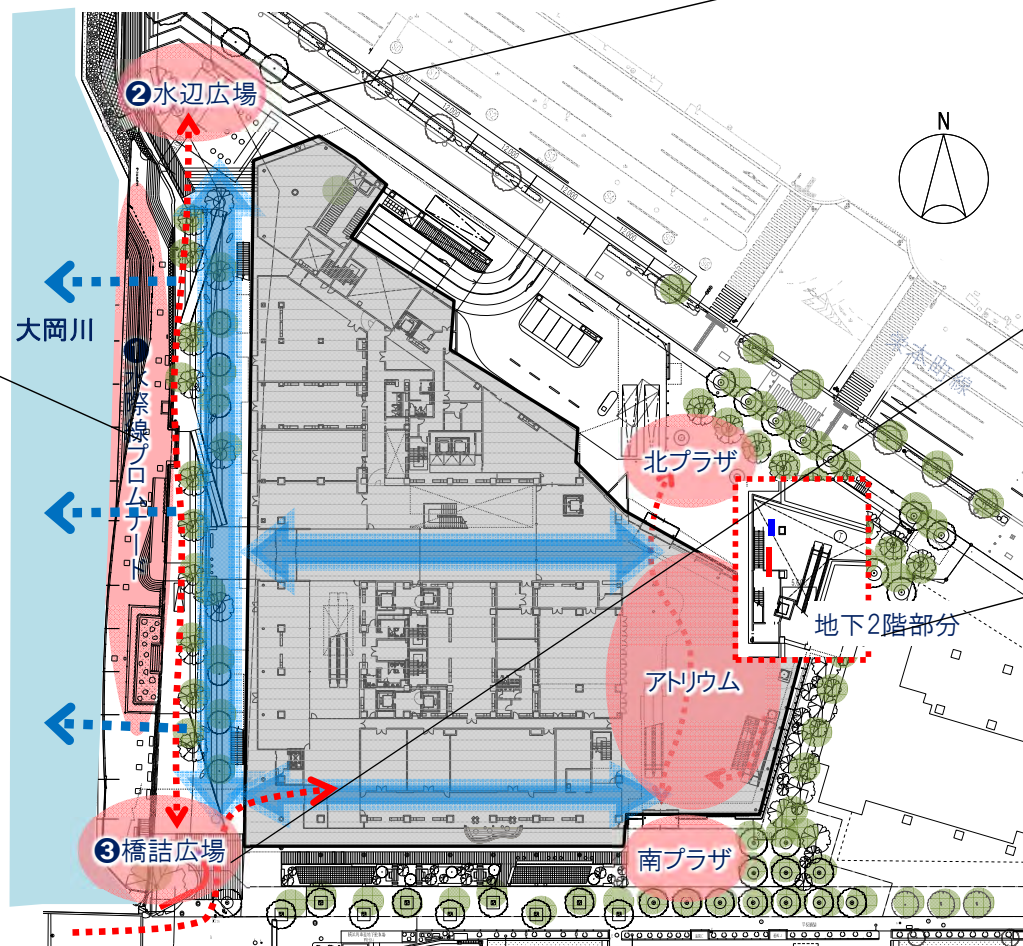
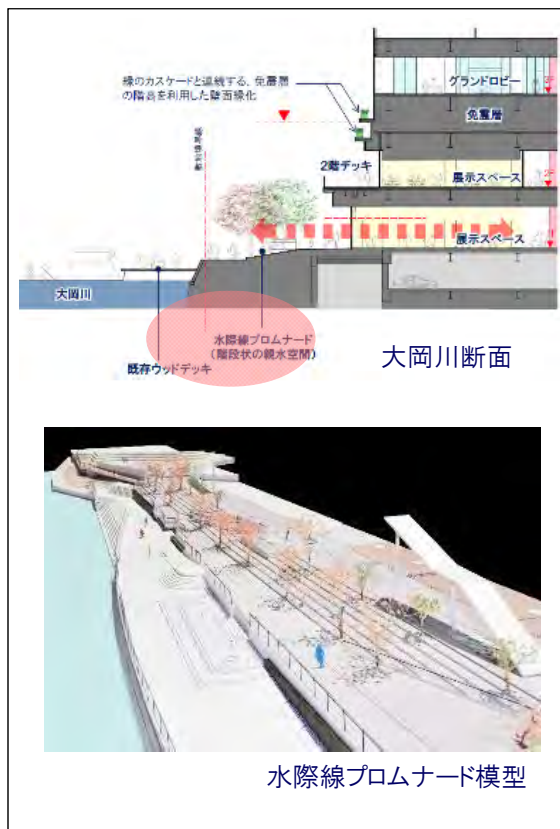
みなとみらい線馬車道駅と接続するアトリウムを中心に、大岡川の水辺環境と連続する低層部の賑わいを創出します。

①水際線プロムナード、②水辺広場、③橋詰広場を整備しプロムナードには桜を中心とした植栽を行い桜並木で市民に親しまれる大岡川との親水性を演出します。

埋蔵文化財発掘調査で出土した遺構の一部を新市庁舎の外構材料として再利用や展示を行います。

展示にあたっては、遺構の説明とともに「開港のまち」として発展した横浜の歴史も紹介する計画です。

※具体的な展示計画は、引き続き関係部局と調整を行います。



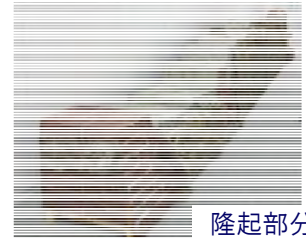
④江戸末期の石積み護岸
・一部を地中に現状保存
・解体する部分は石材を再利用し石積みを再現・展示

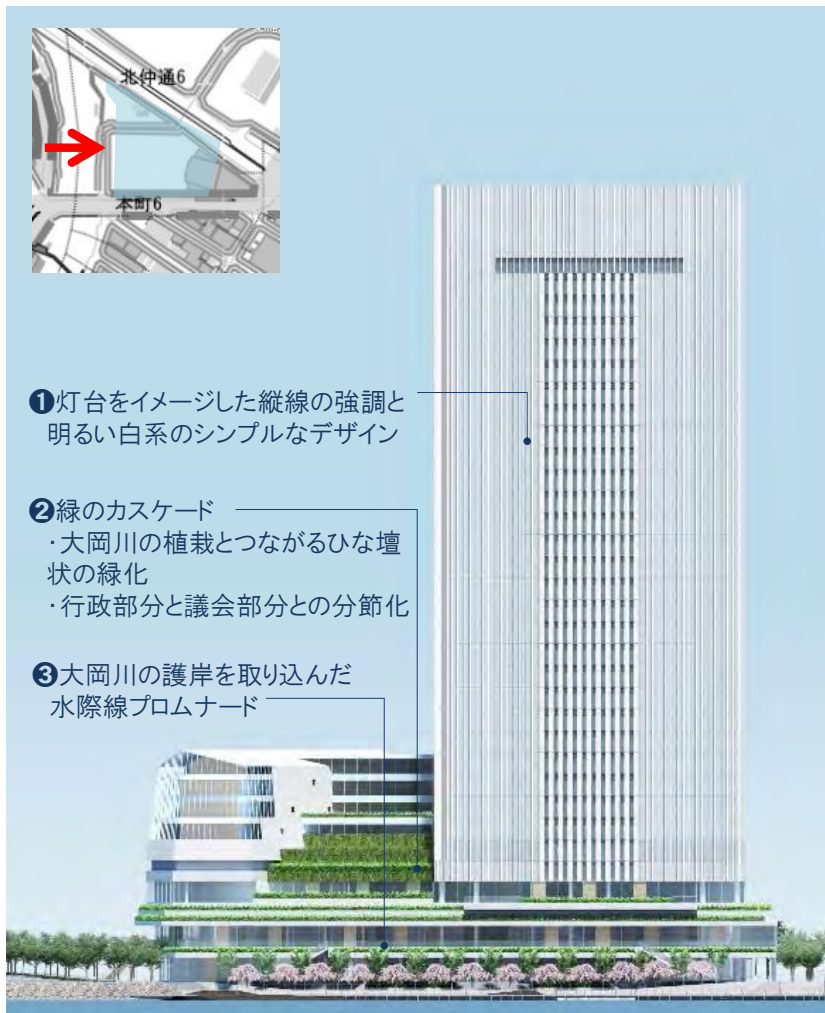


⑤建物基礎と考えられる石組
・外構植栽柵の縁石として再利用・展示

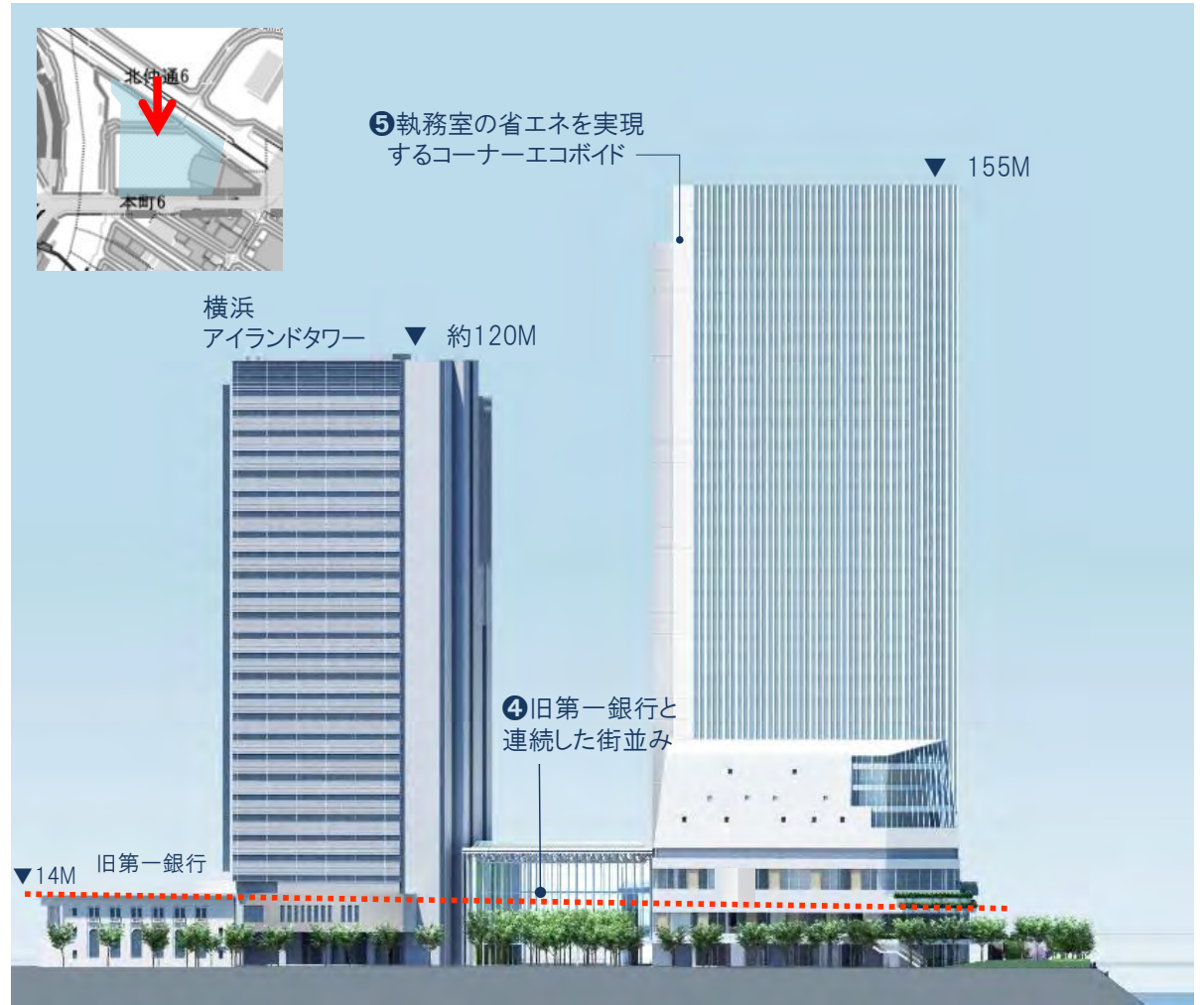


⑥横浜銀行集会所基礎
・関東大震災の影響で、隆起した地盤部分を剥ぎ取り、模型・展示





西側立面図



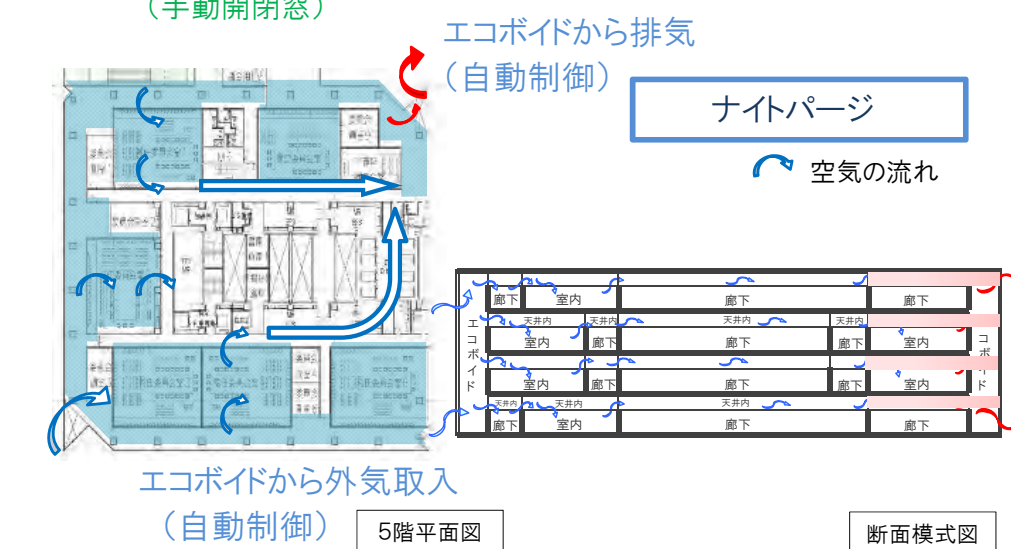
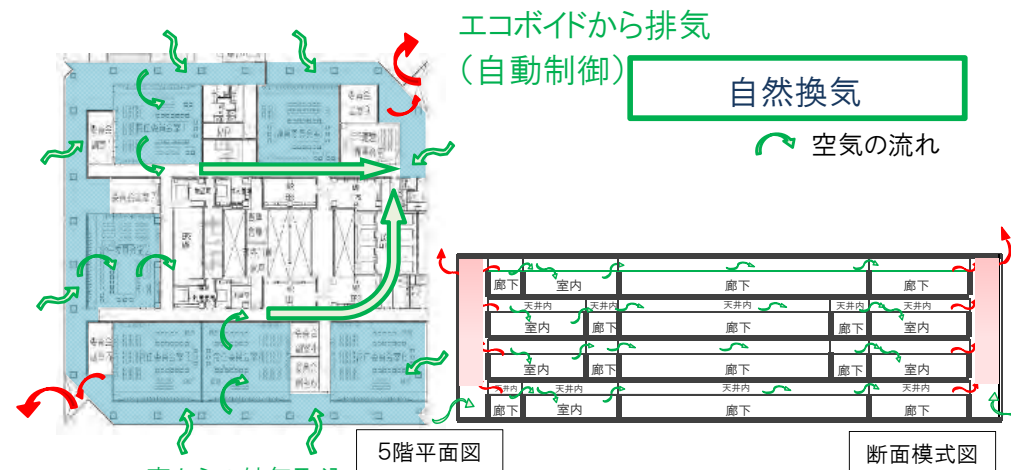
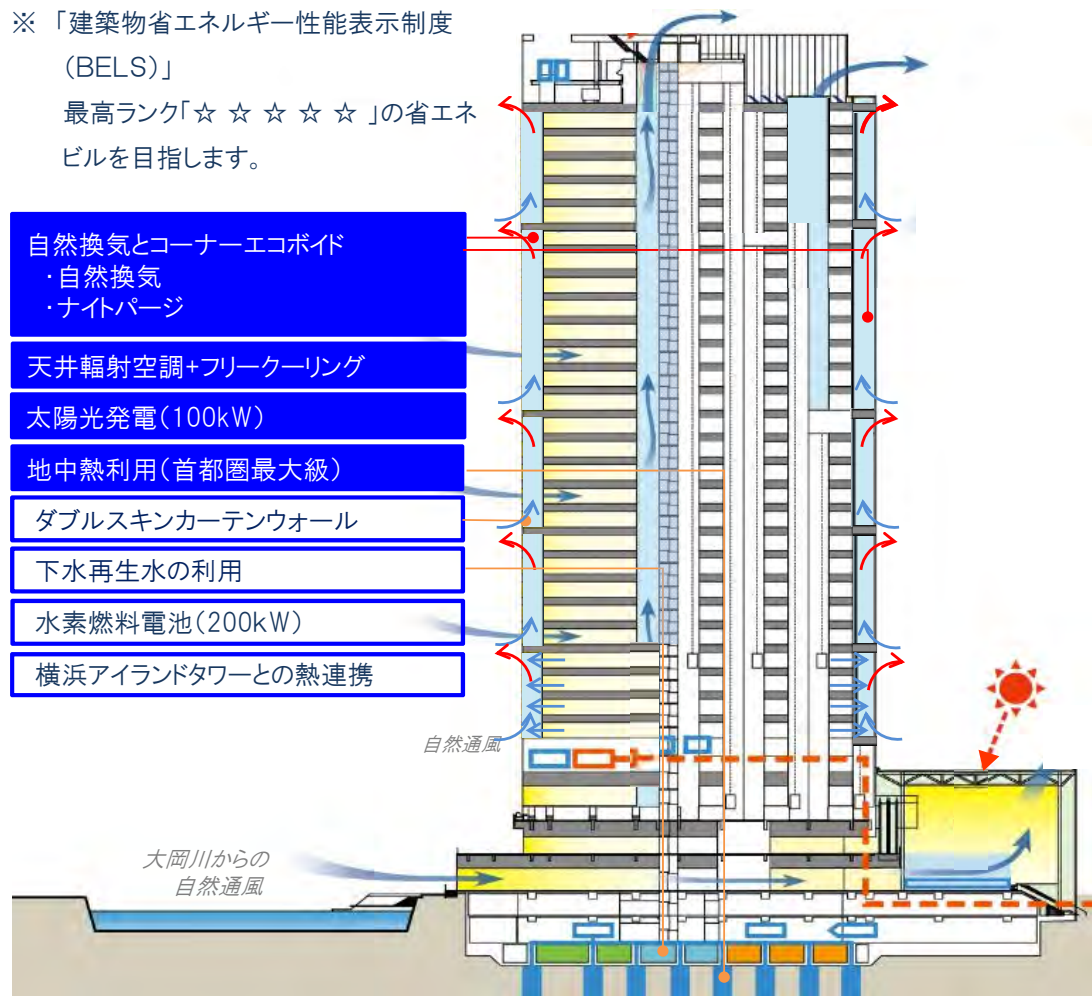
北側立面図

環境に最大限配慮した低炭素型の市庁舎

- ① 積極的な外気活用や高効率機器により最高ランクの省エネビル(エネルギー削減50%以上)を目指す
- ② 窓から外気を取込むことで中間期(春・秋)の空調負荷を低減し、夏期夜間の建物内の熱だまりの解消を行う(執務環境向上)

※「建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)」
最高ランク「☆☆☆☆」の省エネビルを目指します。

- 自然換気とコーナーエコボイド
 - ・自然換気
 - ・ナイトパージ
- 天井輻射空調+フリークーリング
- 太陽光発電(100kW)
- 地中熱利用(首都圏最大級)
- ダブルスキーカーテンウォール
- 下水再生水の利用
- 水素燃料電池(200kW)
- 横浜アイランドタワーとの熱連携



様々な危機に対処できる危機管理の中心的役割を果たす市庁舎

①国内最高ランクの耐震性能

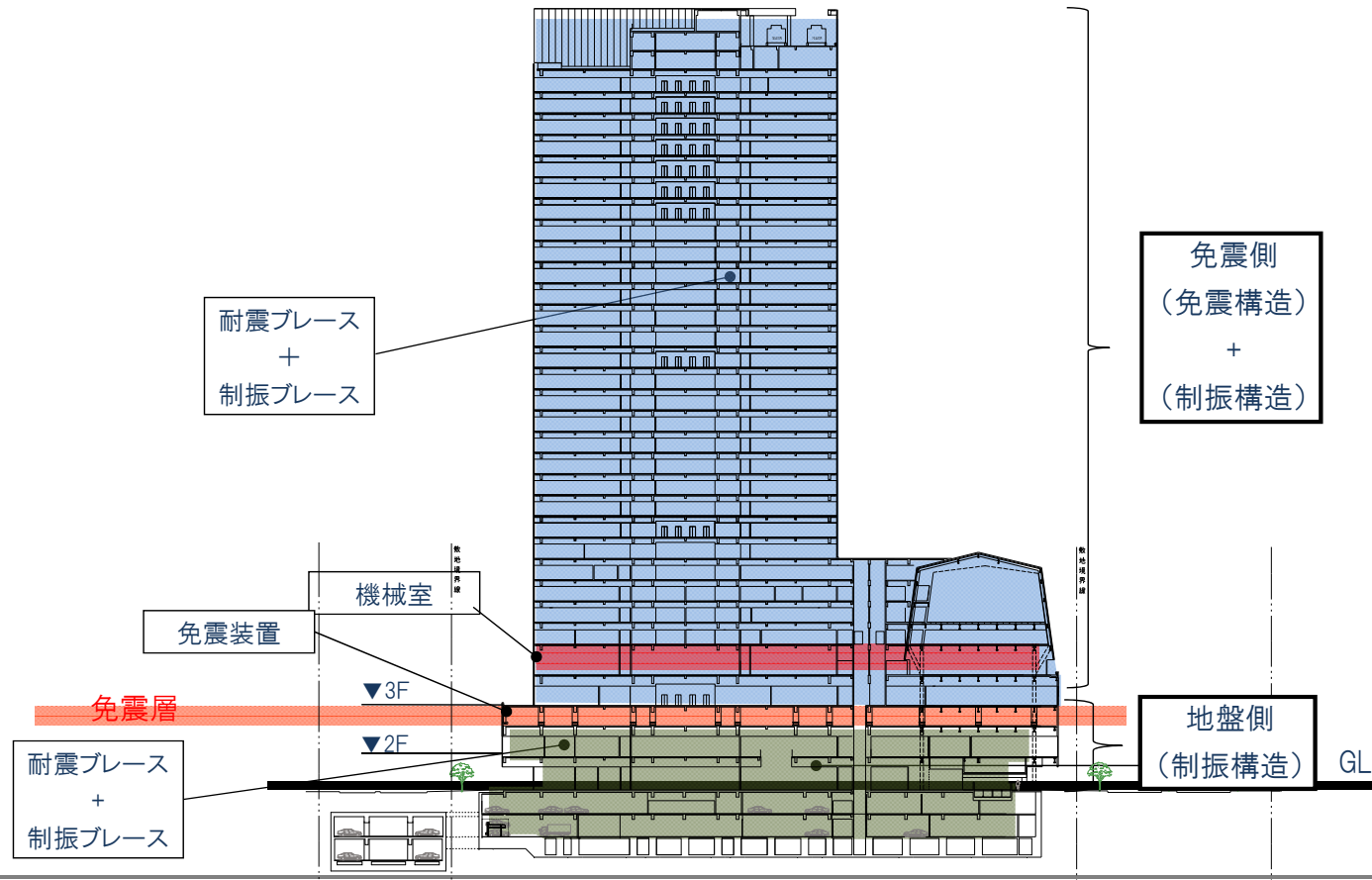
・免震構造と制振構造を組合せ、震度6強から震度7程度の大地震や長周期地震動に対しても業務継続が可能

②BCP機能

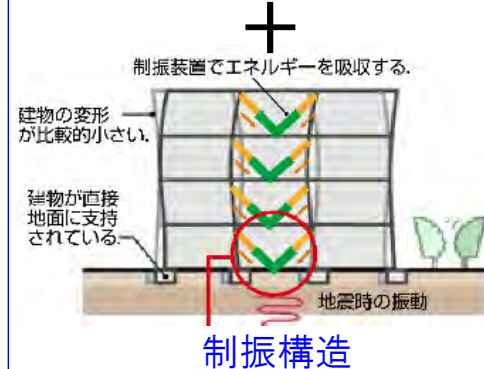
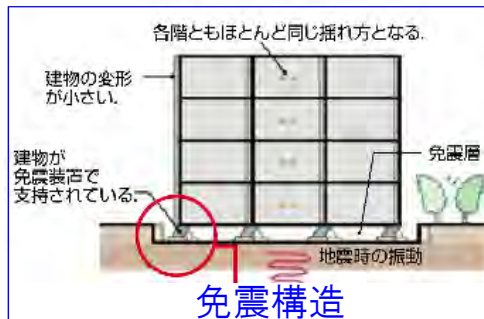
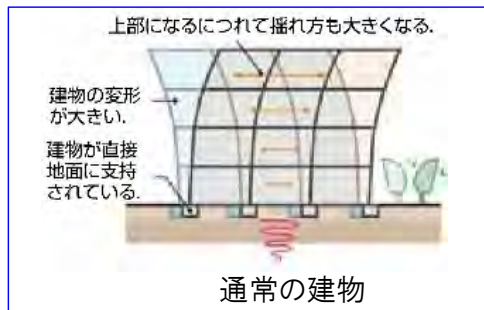
・災害時の飲料水・便所洗浄水、停電時の非常用発電機による電源を7日分確保
 ・津波対策として機械室を4階に設置

③地震・構造モニタリングシステムの導入

・緊急地震速報を活用した地震到達前のエレベーター制御
 ・各階のセンサーが建物の揺れを感知し、蓄積したデータを建物の維持管理に活用



ハイブリッド免震建築物(今回の建物)



今後のスケジュール

